

# 審議した主な議案

## 平成19年度一般会計予算

平成19年度一般会計予算は、2月22日の本会議で設置した議長を除く全議員(23名)で構成する予算特別委員会に付託し審査しました。

提案された予算の主なもの、J-R中央本線連続立体交差事業負担金の約9億4千100万円、武蔵小金井駅南口第1地区第一種市街地再開発事業分担金1億9千800万円、同再開発事業に係る区画道路などの整備に要する負担金1億4千603万円、東小金井駅北口土地地区画整理事業における土地

の評価などの委託料や用地取得費約2億5千600万円、連雀通り前原坂上交差点東から第一小学校交差点東までの区間を拡幅整備するための経費約4億2千万円、市内小・中学校の校舎耐震補強工事など学校施設整備に要する経費約10億8千100万円などです。

なお、3月20日の本会議では(仮称)新焼却施設建設場所選定等市民検討委員会委員の増員に伴う謝礼、生ごみ減量化処理機器購入費補助金などを増額するために、4千425

万円を増額する予算の訂正が市長から出され、最終的な予算額は、前年度の当初予算額と比べて、約6%減の34億2千925万円となりました。

また、同日の本会議では、再開発事業や区画整理事業に関する予算などを削減、生活保護法外援助事業に関する予算などを増額する組替え動議が提出されましたが、採決の結果、起立少数により否決しました。続いて、市長が提案した予算案(原案)の採決を行い、起立多数により原案のとおり可決しました。

平成18年度の一般会計補正予算2件、特別会計補正予算5件及び平成19年度の各特別会計予算5件も原案のとおり可決しました。

### 芸術文化振興条例

この条例は、文化芸術振興基本法が制定されたことから、市に潜在する豊富な文化資源の有効活用を視野に入れながら、地域の特性に応じた芸術文化の振興のために制定するものです。

特徴としては、文化の概念を芸術文化に特化したものとしており、このような条例は多摩地区では初めてであること、また、市と市民及び文化団体等がそれぞれの役割のもとで協働の上、総合的かつ計画的に芸術文化の振興を図っていくことなどです。

市の単独事業として、現在3歳未満のお子さんを養育している方に係る所得制限の適用を除外しているところですが、今回の改正は、子育て支援のさらなる充実を図るため、所得制限の適用除外を義務教育就学前の乳幼児を養育している方にまで、拡大することを主な内容とした改正です。

なお、本条例は平成19年10月から実施するものです。

本会議では、採決の結果、起立多数により原案のとおり可決しました。

市内在住の多くの文化人、文化を愛する市民にとって、待ちに待った条例である。策定過程では公募市民を交えた

野見山修吉(みどりの風)

①ごみ施設への市長の対応ではごみを受け入れる各市や候補地周辺住民の非難に配慮できない。国分寺市のごみ処理スケジュールの再検討を求め、②市民交流センターの取得日程の遅れの責任を隠蔽している。③格差是正や温暖化防止策が不十分。などの理由で反対する。

中根三枝(自由民主)

予算規模は34億2千925万円、市税は12億5千万円の増と自主的財源の拡充となった。行財政改革に取り組み中、人件費の割合は24.4%となり、団塊世代の大量退職でも人件費500万円減、職員給1億5千万円減と更なる改革が進められている。本予算執行を稲葉市長がすることを願って。

森戸洋子(日本共産党)

第1は高齢者、障害者など市民生活を守る対策が不十分であること。第2に、武蔵小金井駅南口再開発事業、東小

金井駅北口区画整理事業など住民の合意が不十分にもかかわらず、予算が計上されていること。第3に新焼却施設のことで、ごみの安定的な処理に不安を残す結果となった。

### 野見山修吉(みどりの風)

### 中根三枝(自由民主)

### 森戸洋子(日本共産党)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

## 平成18年度一般会計補正予算(第6回)

平成18年度における一般会計予算の最終的な補正であることから、各予算項目の執行状況等に応じて予算額の増減を行う計数の整理が大部分を占めています。

次年度の予算に関わるものとして、医療保険制度改正に介護保険システムを対応させる改修費用、都道134号線の用地取得に伴う物件補償費、武蔵小金井駅南口の再開発事業の分担金は、年度内に予算が執行できないため、翌年度に繰り越して使用することができると見込まれています。

また、(仮称)市民交流センターの取得費、中間処理場の事務所棟を新築する事業については、複数年度にまたがって予算を執行する債務負担行為を廃止しています。

さらに、将来の財政負担に備える財政調整基金、職員の大量退職に備える退職手当基金、庁舎建設の基金、今後のごみ行政に係る負担を考慮した環境基金等の積み増しを行っています。

赤字債の臨時財政対策債は発行可能額より1億円減額された。さらに平成18年度末には、退職手当基金と財政調整基金がそれぞれ8億円、15億円となり、今後の財政運営の堅実性が増した。環境基金を積み増したことは、10年後の焼却施設建設に向けての積極的な姿勢といえる。

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

### 野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)

野見山修吉(みどりの風)